

ゆずりは通信

第30号 平成29年1月1日(年2回発行)

発行：ゆずりはの会事務局

電話：0565-35-7182

Eメール：takekaki@hm8.aitai.ne.jp

ホームページ：

<http://www.hm9.aitai.ne.jp/~warabino/>

ゆずりはの会平成28年9月定例会

9月13日(火)午後7時～ 福祉センター 34会議室 7人が参加

内容

1. がん「10年生存率」 朝日新聞 2016年1月26日 .. 大間知さん
各種のがんについて、各ステージごとの、10年後の生存率をまとめた記事の紹介
5年までに再発しなければ安心、との意見もあるが、乳がんなどは、その後も生存率は下がる。
「腹腔鏡手術は技量差が出やすい。少しでも不安があれば、医師に手術の難易度やリスクについて、納得するまで聞いてほしい。」 藤田保健大病院 宇山教授
2. 避難行動要支援者名簿 .. 林さん
平成25年度に災害対策基本法が改正され、名簿の作成が義務化された。
要支援対象者は
 1. ひとり暮らし高齢者等登録者
 2. 要介護3から要介護5の認定者
 3. 在宅重度心身障がい者手当の受給者
 4. 身体障がい者手帳において、視覚・聴覚・下肢・体幹のいずれかが1級から2級の者
支援者は、家族や親せきが登録されているが、遠くに住んでいる人も多い。支援者として隣近所の人をお願いしたいが、なかなか承知してもらうことが難しい。
お互いによく知らないとか、外国人とか。
民生委員は、困っている。
3. 小野薬品のオブジーボ .. 竹内さん
がんの免疫治療薬として話題になっている。
自分の免疫細胞を使って、がん細胞を殺してしまう、と言う新しい考え方の薬である。
タイプの皮膚がんのメラノーマとか、肺がんに変良く効く。
がんの治療法は次々と新しいものが出てくるので、注意して、勉強しておいた方が良い。
又この新薬は、費用が1年間に1,500万円とか3,500万円とか、言われている。
命はお金では測れない大切な物である。一方で、医療費の増加は抑制しなくてはならない。
医療費を、どう分配したらよいか、考えてゆかなければならない。

リユーマチの薬でも、免疫薬と言うものが開発された。使ってみるととても調子が良い。

4. ゆずりはの会定例会の開催曜日についてのお尋ね

今まで、第2火曜日の夜に開催していたが、他の用事と重なって参加できない人もいます。

例えば、第2木曜日は、皆さんの都合はいかがでしょう。

今月(9月)の会合への出席者は、

大間知、竹内公、竹内一、竹山、徳島、林、松田さんの7人とやや少なかった。

今後を見通すと、健康上の理由などで参加が難しい人もいるかもしれない。なるべく皆さんの都合のよい時に開催したいと思いますので、都合をお聞きしたいと思います。

5. トヨタ記念病院市民公開講座「認知症」・・・徳島さん

10月12日(水) 12:30～ トヨタ記念病院視聴覚室

認知症について、様々な話があります。要申し込み9/30まで。チラシがあります。

6. 本多さんのこと

9/18に自宅へ電話したところ、たまたま本人と連絡を取ることが出来ました。今は、入院中ですが、連休なので許可をもらって自宅に帰っていたとのこと。

「7月の定例会で話していたように、手術をした。経過は順調である。10月のゆずりはの会には、参加の予定である。

ただ、今回の病気は内緒にしていたので、ほとんどの人が知らない。」

7. 参考情報

あいちホスピス研究会の永井様から、下記のようなバス旅行の案内がありました。

関心のある方は、竹内まで連絡ください。

11月16日(水)

石山寺～佐川美術館～守山浄瑠璃館など

会費 10,000円位

ゆずりはの会 10月定例会

10月11日(火)午後7時～ 福祉センター 34会議室 9人が参加

内容

1. 豊田地域医療センター公開講座

「小笠原先生、ひとりで家で死ねますか？」

10月8日

ゆずりはの会:河野、釘宮、徳島、本多の4人が参加

内容

小笠原医院では内科・循環器内科を中心とした外来診療をしている。

小笠原文雄先生を中心として、医師6名で24時間対応の在宅医療を行っている。
現在約150名の患者の在宅医療を行っている。在宅緩和ケア、緩和デイケアも行っている。
『住み慣れた自宅で暮らしたい』という患者の希望を叶えるお手伝いをしてくれる。
トータルヘルスプランナーを配置して、ドクター・看護師だけではなく、併設の訪問看護ステーション・介護支援サービス・ボランティアがチームを組んで在宅ホスピスを行っている。
ひとり暮らしの方でも大丈夫。

話し合い

- *「一人暮らしでも面倒を見てくれる」という うたい文句だったので期待して聞いたが、家族との話し合い、という話がしょっちゅう出て来たので、本当の一人暮らしは、ダメかとかっかりした。
- *「そんなことはない、近くに家族が居なくても面倒を見てくれる」と思った。
- * 医療センターが主催したということは、豊田市でも同じような仕組み、体制を作ってゆくということだと、質問したが、はっきりした返事はなかった。

2. 中核市幸福度調査 2016 年度版で豊田市が第 1 位

中日新聞(10/5)の記事の紹介

- * ブランド調査で世界5位に輝いたトヨタ自動車のお膝元だから
- * 15才～34才までの若者の完全失業率の低さが4.8%で1位だから
- * 待機児童率1位(0%)
- * 一人暮らし高齢者率1位(9.8%)
- * 1人あたりの図書冊数(本の所持数)

3. トヨタが小型ロボットの「キロボミニ」を発売

- * 人の表情を読み取って感情を識別し、状況に応じた会話や動作が可能
- * 重さ183g、手のひらに乗る。
- * 価格約4万円(他に300円/月の使用料)

4. オートファジーの説明

ノーベル医学生物学賞を受賞した大隈良典氏の研究内容

オートファジー(自食作用)は、不要物などを分解してリサイクルもする細胞内の働きである。
オートファジーの機能の解明が進むことで、がんや神経疾患などの病気の治療法の開発が可能になると言われている。

5. こども食堂について考える集まり

ボラ連交流サロン

12月2日 福祉センター

ゆずりはの会11月定例会

11月8日(火)午後7時～ 福祉センター 34会議室 7人が参加

内容

1. 臨床宗教師の話

* 4月に、大垣市の沼口医院を見学した。ホスピスでのスピリチュアルケアに仏教者が活躍していた。8月に、NHKのクローズアップ現代で、その様子が紹介された。

* 野々日月泉(女性、真宗大谷派僧侶で、臨床宗教師)。

末期の大腸がんの女性とかかわる。

患者は、自称「無宗教」である。死への恐怖があつて、不安な毎日を送っていた。彼女との会話を通じて、信仰に目覚めてもらい、穏やかな最期を迎えることができた。

* もう一例 田中雅博さん(医者、僧侶)。

医師・臨床宗教師として、患者と話し合いながら、患者の人生の価値・意味を見出し、本人が認識することで、安らかになってもらって来た。自分が末期のすい臓がんにかかり、最期が近づいた。臨床宗教師の大切さを、改めて思い知り、後輩の養成に命をかけている。

2、長寿の秘訣 (10/12 の中日新聞)

100歳以上の高齢者 100人に対するアンケート調査結果。

旺盛な好奇心を持っている。くよくよせずに前向きに行動して、社会とつながっている。

食欲が旺盛。バランスの良い食事に気を使っている。

3. 高齢者の歯の調査

国立長寿医療センターが、2万人を調査

友達が多い人は、残っている歯の数も多い。

4. 年寄りの助け合い

* 地域包括ケアシステムとか、支え合いの議論はされているようだが、自分たちの日常の暮らしが変わるようには進んでいない。本気でやっているようには思えない。

* 色々な仕組みを作り、話し合いを始めたので、だんだん形が見えてくるのではないか。

* 人の助けを期待するのではなく、自分たちも何かを始めることが必要と思う。

5. 一人暮らしの高齢者に対する隣人の対応について、

一人暮らしの高齢者に声をかける、困っていることがあれば、支援してあげる、など良き隣人もいる。

そうした付き合いを頭から拒絶する人もいる。一般論では議論できない。昔から同じ地域で暮らしてきた人たちの間ではうまくいっているようだ。

6. 民芸の森

市が手を入れるとその都度良さが失われてゆく。

豊田市に文化を育てようとする視点が、行政に、ぜんぜんない。